



第5回検討会等の主なご意見

令和3年3月22日

デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した
都市政策のあり方検討会

第6回資料－3

第5回検討会等の主なご意見

章 ▶ 1章1 新型コロナ危機を契機に生じた変化

- 主な意見
- 職住遊の融合はキーとなる概念であり、初出箇所に説明を加えるべき。

章 ▶ 1章2 都市政策上の課題

- 主な意見
- 今回新たに対応すべきものと、これまでの都市政策（コンパクトシティ、ウォークブル、都市再生等）との関係性を明確にすべき。また、ニューノーマルだからといって、これまでの都市政策の取組の大きな方向は変わらず、それらを位置づけ直すということではないか。
 - 交通については非常に重要なファクター。本検討会の射程だけに収まるものではないが、考慮すべき観点として入れておくことは必要。
 - 人間中心・市民目線のまちづくりはキーとなる概念であり、その趣旨をより明確にすべき。なお、人間中心・市民目線のまちづくりの例として挙げられていた「スマートシティ」は手段であって目的でない点に注意。

章 ▶ 2章1 目指すべきまちづくりの方向性

- 主な意見
- まちづくりを評価する際に当たり前となる観点が不足しているのではないか（例えば、混雑緩和や人々の選択肢の増加等のまちづくりによって実現する絵姿等）。
 - 人間中心・市民目線のまちづくりの深化／機動的なまちづくりの実現により、新たな都市における営みを創造される、という観点の記載も必要。

▶ 次ページへ続く

章

➤ 2章1

主な意見

- 都市アセットの言葉の定義や使い方の精査が必要（都市アセットは、公共物＋民間の保有するパブリック要素を持つもの、と定義されているが、郊外のオフィス機能の充実や、用途転換を促すという視点等も含まれており、都市アセットがより大きな定義であることが分かるようにするべき）。
- 既存ストックが利活用され、その価値が更に高まると都市アセットになると認識。既存ストックのすべてが都市アセットとして利活用できるわけではないので、活用できるものをしっかり活用していく姿勢がよいのではないか。
- 都市アセットの利活用について、多様なものに転換していく際に、何らかのバリアがあることや、スムーズに対応できる仕組みになっていないことが問題。この中間とりまとめでは、都市アセットを生み出し、地域が魅力的になるために、都市政策として何ができるかをまとめていくことが必要ではないか。

章

➤ 2章2（A） 地域資本を活用した課題解決型・価値創造型のまちづくり

主な意見

- 課題解決型だと課題に対して対応するだけのように読めるので、ビジョン持って新しい価値を創造していくような取組も含めたほうがよい。
- 「人間中心／市民目線のまちづくり」という観点からすると、行政が単にニーズに応えるだけということではないはずである。地域の課題に対応し、民のニーズを捉える段階から、これを創造的なまちづくりにつなげていくところまで高めていくことが重要。

➤ 次ページへ続く

章

➤ 2章2 (A) 地域資本を活用した課題解決型・価値創造型のまちづくり

主な意見

- 地域資本と都市アセットの関係性が不明確。地域資本のポテンシャルが最大化されるように都市アセットを利活用する、ということか。
- 課題解決型に対して価値創造型という議論が出ているが、この点に関しては、機能価値に対して感性価値という考え方が活用できるのではないか。住民や来街者にとっては、感性価値がより重要。なお、イノベーションを価値創造型と呼ぶのであれば、機能価値・感性価値のどちらも関係。都市づくりにおいて機能価値向上の論点が先行しがちだが、感性価値向上も重要という論点を本文内に盛り込んだ方がよいのではないか。

章

➤ 2章2 (B) 市民目線での圏域設定

主な意見

- 圏域設定においては、その目的が重要なのに、記載内容が不明確。

章

➤ 2章2 (C) 都市の特性に応じたまちづくり

主な意見

- 都市特性に応じたまちづくりにおいて、規模と立地に応じて検討することが必要。
- 多様性、ダイバーシティの視点が不十分。多様性を包摂するためのインクルーシブという考え方も重要。なお、「多様性」や「多様化」等では意味が異なることもあるので、使い分けに留意。

➤ 次ページへ続く

章

➤ 2章2 (C) 都市の特性に応じたまちづくり

主な意見

- 大都市において創造性のある都市の実現のためには、多様な都市構成員の多様なライフスタイルを許容することや、多様なクラスターが交わるコミュニティハブの視点が重要。コミュニティハブについてはウォークラブルを含めた公共空間、ナイトタイムの活用が重要。
- 「都心の実験区」の狙いを書き込むことが必要。
- 全体的に「職住遊学」とすべき（例えば、最近の都市開発案件でも学びの空間が企画に入るケースが増加）。
- 地方における都市政策を検討する際、まちなみの維持・改善の視点と、中心市街地の再活性化およびスプロール化の防止という視点が、これまで以上に重要。また、記載の「チャンス」については、より具体的に記載することが必要。

章

➤ 2章2 (D) デジタル技術/データを活用したまちづくり

主な意見

- オプトインで収集した人々の活動の中で日々生まれるデータこそが民意を反映したリアルなファクトデータであり、そのデータを使うことがスマートシティにとって重要。
- エネルギーや脱炭素などの課題に対して、都市政策としては需要側にアプローチしていくべき。これを、市民目線のまちづくりという文脈で取り込んでいけるとよい。
- 都市の課題を解決するためにデジタルを利用する視点が必要（例えば、駐車場や駐輪場の空き状況がリアルタイムでわかるサービス等）。

➤ 次ページへ続く

章

➤ 2章2 (D) デジタル技術/データを活用したまちづくり

主な意見

- 地方でウォークابلやコンパクト・プラス・ネットワーク等に取り組んでいると、どのようにまちなかまで人を運んでくるか、という課題にぶち当たる。駐車場の過不足は地域による異なり、公共交通にも限界がある。自転車等と組み合わせて人をまちなかに運ぶシステムを考えることが必要。
- ニューノーマルによって在宅勤務が増えても、オフィスで消費されるエネルギーが減っておらず、都市全体としてエネルギー消費が増えていることが懸念。スマート技術を使ってエネルギー効率化を図っていく観点も必要。
- UI/UXはサービスやアプリに附随するもので、「既に普及したUI/UX」という表現よりも、「既に普及したアプリケーションなど既存のプラットフォーム」とした方が良い。

章

➤ 2章3 (1) 都市アセットの利活用のあり方

主な意見

- 都市特性ごとに使う施策と使わない施策がある（例えば、立体空間の活用は大都市向き等）。特性に応じて都市アセットを利活用するという記載があってもよいのではないか。
- 市民目線の圏域については、市町村単位よりも小さい範囲で物事を考えるという観点からすると、民から発意して、行政を巻き込めるとよいのではないか。
- 地域・エリアの表記揺れを統一すべき。

➤ 次ページへ続く

章

➤ 2章3（1）都市アセットの利活用のあり方

主な意見

- 景観保全だけでなく、まちの賑わい確保の視点からも中心市街地のシャッターの閉まっている1階スペースの活用は重要な視点。
- まちづくりの評価指標について、どういう状態の活動に着目するのか、より正確に表現すべき（「滞在時に」ではわかりづらい）。

章

➤ 2章3（2）データ利用環境の改善のあり方

主な意見

- 行政はデータによって事実をしっかりとつかんだ上で政策に反映する、というエコシステムを回していくことが重要。
- 行政データと民意を反映したデータの組み合わせの重要性について、アディショナルではない形で触れた方がよい。
- 民と一口で言っても、データ提供、データ活用等の各局面や、各主体で関わり方が異なり、それぞれの場面ごとに民の役割があるのではないか。
- データを活用していくノウハウを自治体が持てるようにする支援が必要。
- 短周期データも重要だが、行政が収集する長周期のデータも重要。行政収集データは継続的に取得され、品質保証が確保されている点がメリット。データの作成方法を効率化しても、時点間比較できるように継続性の確保等は配慮すべき。
- 短周期のデータについては、数日単位ではなく、リアルタイムのデータこそが最も価値が高いため、そのように書き込むべき（特に、人流、交通、購買、店舗の稼働率等）。

第5回検討会等の主なご意見

章

➤ 2章3(3) まちづくりの担い手、プロセス等のあり方

主な 意見

- 記載のある「規制的手法がなじまない」は言い過ぎ。規制的手法を含め行政によるまちづくりの主導、バックアップについては継続してしっかり取り組む、その上で、民間の活動を応援していくことが大事。
- まちづくりの担い手、プロセス等のあり方で記載しているマネジメントの文脈にも、市民目線での圏域設定の話を記載してはどうか。
- 人間中心のまちづくりのためには、パーソナライズされたサービスも必要。そのためには、民主導の地域運営組織（RMO）やまちづくり団体のような中間的な役割を持つ組織も重要。
- B I Dの導入についても明記してはどうか。
- エリアマネジメント活動の利益を享受する主体について、開発を行った主体などを具体的に明記すべき。
- 官民間での連携や意思決定、合意形成等について、判断基準や価値基準の形成も含め、テクニカルなサポートがあった方がよいのではないか。

章

➤ 3章 おわりに

主な 意見

- 都心部から人材が流失する動きがコロナにより加速した可能性がある。

章

➤ その他

主な 意見

- 2章3（1）にまちづくりの評価の指標において、QoLを評価するという記載があるが、空から見るハード整備の結果ではなく、地域社会の中に入ってまちを評価するという観点は重要。
- ニューノーマルを考える際には、コロナで経験したことを拠り所にして今後を考えていくことになりがちだが、そのようなボトムアップ的な思考だけではなく、従来から都市が担うべき政策的な方向性—多様性や創造性—から導かれる取組もあるので、それも考慮して記載していくべき。